

令和4年度 非核都市宣言平和事業実行委員会
第2回議事録（要旨）

日 時：5月17日（火）午後6時15分～8時

会 場：かたらいの道市民スペース

出席者：委員 11名（中里委員長、小餅副委員長、大上委員、木川委員、牛田委員、
田村委員、伊東委員、北山委員、栗原委員、横山委員、島津委員）

事務局 3名

1 開会

2 議題

（1）憲法月間記念行事について【資料1-1、資料1-2、資料1-3】

・事務局より、憲法月間記念行事の当日業務について説明。

【委員】スピーカーは会場のどこに設置するのか。以前映画を観た際にセリフがとても多い印象を受けたので、よく聞こえたほうがよい。

【事務局】会場の天井にスピーカーがついている。

【副委員長】当日の役割分担について、希望がある方はいるか。

→受付係：田村委員、島津委員

【委員】何人ずつ配置する必要があるのか知りたい。

【事務局】誘導は4人程度いればよい。配線箇所を避けた席までの誘導や、エレベーターから会場までの案内等をしていただきたい。

【副委員長】前もって分担をしていますが、当日の状況によって変わってくる。

→誘導係：当日バランスを見て分担する。

【事務局】その時の状況によって柔軟にご対応をお願いしたい。

（2）夏季平和事業について【資料2-1、資料2-2、資料2-3】

・事務局より、夏季平和事業（案）について説明。

【副委員長】「これをぜひ」というものがあればうかがいたい。

【委員】ウクライナと関連づけて何かできたらよい。例えば子ども向けイベントであれば、ウクライナ文化を楽しみながら、今の状況を伝える。一般向けイベントであれば、ウクライナに関する映画を上映する。

【委員】太平洋戦争と今のウクライナでの戦争はだいぶ異なる。武蔵野市の場合は毎日爆弾が降ってきたりして、地下に隠れても死んでしまうかもしれなかった。それに比べてウクライナでの戦争は、2日休んで家族に会いに戻ったり、建物の上の方がよく壊れたり、戦争のやり方がゲーム的な感じを受ける。

【委員】攻撃の仕方については、「ゲーム的」かどうかは分からないが、数十年前と比較すれば変わったことは明らか。

夏季平和事業イベント案で挙がっていた「永遠の0」には、申し訳ないが反対する。原作者の思想等を考えると、市で行う行事で上映することに納得ができない。市の平和についての考えとして伝わった際に、ハレーションが起

こるのではないか。図書館で借りてなるべく先入観を持たずに原作を読んだが、特攻隊で亡くなった若者たちの死を美化するような描写がある。ゼレンスキー大統領は、60歳以下の男性は銃を持って戦えと言い、女性や子どもだけが逃げているが、冗談じゃないと思っている人がいるはず。何の恨みもない人を撃たなければならない、加害しなければならないということが嫌。

【委員】家族がそろって初めて平和と言えらると思う。戦争に行ったら死んでしまうかもしれない。

【委員】何故戦争をしたくないかと考えたときに、自分の息子が赤の他人を殺さなければならない、加害しなければならないことがあるから。最近のニュースで戦争の映像が流れるが、毎日殺人の様子が垂れ流しになっているだけ。このことをもっとシンプルに伝えられないだろうか。

【委員】私は以前「ヒロシマへの誓い」を推薦した。国連で核兵器禁止条約が成立するまでのドキュメンタリー映画。色あせず、非核平和の原点という意味でもよい。ウクライナと関連づけるならば、1970年の反戦映画「ひまわり」を薦めたい。ウクライナをロケ地とした、冷戦の時代につくられた恋愛映画。綺麗なひまわりの下には敵国の骨が埋まっていると思わせられる。一般向けイベントとして推薦したい。

「永遠の0」については疑問に思うところがある。委員から推薦された作品ではなく、事務局側から何年前より提案されている案だと思う。

【委員】「ヒロシマへの誓い」は観てみたいと思えた。「ひまわり」は最近色々な場所で開催されているので、簡単に観られる。

【副委員長】夏季平和事業で講演会を開催することはもう難しいか。

【事務局】スケジュールとしてはぎりぎりだが、そのような案ということであれば、チャレンジはさせていただきたい。

【委員】費用等もそれぞれで確認する必要がある。

【委員】以前から話に挙がっていたサヘルローズさんと呼ぶことは、もう難しいかもしれない。コロナの今後の状況も分からないため、大人数を集められないのであれば、講演会より映画上映会がよいか。

【事務局】コロナで制限はあるが、以前よりは定員について厳しい決まりはない。ただ有名な方を呼ぶなら予定している会場規模では勿体ないような気もする。講演と映画それぞれで希望の案を出しておき、今後詰めていってもよい。

【委員】話を聴きたいのは伊勢崎賢治さん。人気なので、8月は難しいかもしれないが、11月を見据えて考えたい。

【委員】大きな会場を借りているわけではないので、映画がよい。「ヒロシマへの誓い」は高校生が観ても感動したと言う。監督とサーロー節子氏は同じ高校の先輩、後輩で、自分を重ねていて内容が入ってきやすい。

【副委員長】一般向けイベントは「ヒロシマへの誓い」上映会でよいか。

→賛同。

ワークショップの案は昨年の実行委員の大学生の提案か。

【事務局】お見込みのとおり。ものによっては1日で終わらせるのではなく、継続的に、例えばイベントなどで展示や発表をするという話も出ていた。

- 【委員】子ども向けイベントに実際に参加する子どもたちの年齢層が知りたい。
- 【事務局】イベントの内容によって異なるが、去年は「うしろの正面だあれ」上映会で小学生が多かった。一昨年はコロナの関係で中止。その前の年はおしばいで、保育園児くらいの年齢の子が多く、お母さんと親子連れで来る方がとても多かった。
- 【委員】お母さんが子どもを連れてくると、赤ちゃんくらいの年の子も参加できるので動き回る様子がみられた。出し物によって来る人は変わると思う。
- 【副委員長】過去に紙芝居を作るという案も出ていた。武蔵野市立第二小学校の子どもたちが武蔵野市民科という授業の一環で作った「iisakai (いいさかい)」という雑誌を見て感心した。
- 【副委員長】子どもたちが参加できるようなイベントがよい。せつかくの大学生からの案を大事にしたい。
- 【委員】中学生くらいの子が参加できるものもよいが、受験等で忙しい。
- 【委員】若い人たちを集めるのはなかなか難しいこと。夏休みの自由研究にしてみようという手もある。
- 【事務局】“ものづくり”で自分も手足を動かす体験型だと、記憶に残りやすく定着しやすいと思う。
- 【委員】まだ飲食や食べ物をみんなで作るというのは難しいか。
- 【事務局】食べ物を作る、マスクを外すということはハードルが高い。去年ほどではないと思うが、人数を限るなど限定的になってしまう可能性がある。
- 【副委員長】子ども向けイベントは“ものづくり”として、今後内容を詰めていくということではどうか。
- 【事務局】事業者などをお願いする必要があるということであれば、そこも調整が必要。平和という切り口でワークショップをやっている例があまりなく、いのちを題材とするようなものはあったので、そういうものをうまく結びつけることも必要かもしれない。
- 【委員】例えば絵本の読み聞かせであれば「てぶくろ」、ウクライナの民話「へいわってどんなこと？」を薦めたい。沖縄の子どもが戦没者追悼式で朗読した詩に長谷川義史氏（絵本作家）が絵をつけた「へいわってすてきだね」は、何年か前にとっても話題になった。
- 【委員】何年か前の話だが、武蔵野商工会館で戦時中の食体験事業をやっていた。
- 【事務局】現在は食べ物を作って食べるという行為はやはりまだ難しい。
- 【委員】給食は食べている。
- 【事務局】イベントとして実施するとなると難しい。
- 【委員】ホワイトイーグルのまっとうさんが、絵本の歌い聞かせというのをやっている。どんな絵本でもできるとのことで、引っ張りだこ。
- 【委員】すいとんづくりの話聞いて、小麦はウクライナや日本の食文化に直結しているものだと思う。作って持ち帰るなどの工夫もできる。親子で考えられるような、中立的なイベントができるとよい。
- 【副委員長】これらの案を検討し、6月に提出するということがよい。→賛同。
- 【事務局】場所がプレイスのため楽器、歌などは難しいかもしれない。
- 【委員】料理教室を開催することがあるが、パンやクッキーなどの焼いて安全に持ち

帰られるものであればよい。

【委員】読み聞かせの場合、読み手はいつもどうしているのか。

【事務局】過去にはさくらキッズや、小学校の読み聞かせグループ等をお願いをしている。

【事務局】5月中にアイデアをいただき、6月の実行委員会では決定させていただきたい。

(3) 平和の日イベント実施案について【資料3-1、資料3-2、資料3-3】

・事務局より、平和の日イベント（案）について説明。

【委員】今年の憲法月間記念行事に加藤陽子氏を呼ぼうとしたが実現しなかった。平和の日イベントで呼ぶのはどうか。今は時の人となっており、難しいかもしれないが、東京大学教授の女性の歴史家で、軍事に詳しい。中高生にも講演をされており分かりやすいが、2年先まで予約がいっぱいという情報もある。他には歌や音楽もよい、過去にシャンソン歌手のクミコ氏を推薦した。

【委員】加藤陽子氏にダメもとでも連絡してみるのはいかがでしょうか。

【委員】例えば2年後に約束してもらえたらそれでよい。

【委員】講演であれば元自衛隊レンジャーの井筒高雄氏の話ぜひ聴きたい。1992年にPKO法が可決された際に退職された方。ベテランズ・フォー・ピース・ジャパンという会で、元軍人から見た平和を訴える活動をされている。1時間ほどのYouTube動画を見たが、とても勉強になった。

【委員】今年は市としては市制施行75周年、非核都市宣言も40周年の年で、核や原爆の問題を考えられるようなイベントができるとよい。被爆された体験談や、それが描かれたようなものがよい。

【委員】確かに年々、体験者は少なくなっている。

【委員】少し違う切り口で、今年で沖縄返還から50年、今現在の日本全体にとってどういったことを意味するのか集まった人が考えられる場を作られるとよい。

【委員】夏季平和事業でプレイスのギャラリーでのパネル展が2日間なのは短い気がするが、常駐する必要がある関係か。

【事務局】職員が確実に常駐できる日としてお示ししている。昨年も2日間実施させていただいた。

【委員】以前、吉永小百合氏をお招きしようとした。人を多く呼ぶのであれば、その年よりも翌年のことを考えた方がよい。大きいホールをおさえる必要がある。

【委員】過去には講師の候補として、吉永小百合氏、美輪明宏氏、張本勲氏などが挙がっていた。美輪明宏氏は被爆者でもある。

【委員】具体的に決めるには予算の関係などもあるので難しいのではないかと。

(4) その他

・次回の委員会は、6月14日（火）午後6時15分～ かたらいの道市民スペースで開催する。

3 閉会